

# 認知症スティグマ評価尺度 日本語版 (Phillipson Dementia Stigma Assessment Scale : PDSA-J) 使用説明書

## 1. 概要

PDSA-J は、人々の認知症スティグマ（認知症に対する偏見や差別）を評価する質問票で、University of Wollongong の Lyn Phillipson 博士らによった開発された尺度（注 1）の日本語への翻訳版です。PDSA-J は、地域における認知症スティグマの実態把握や、認知症関連施策の効果評価として活用できるなど、認知症共生社会の推進を目指して作成されました。PDSA-J の開発は、以下の論文に詳細が記載されています。

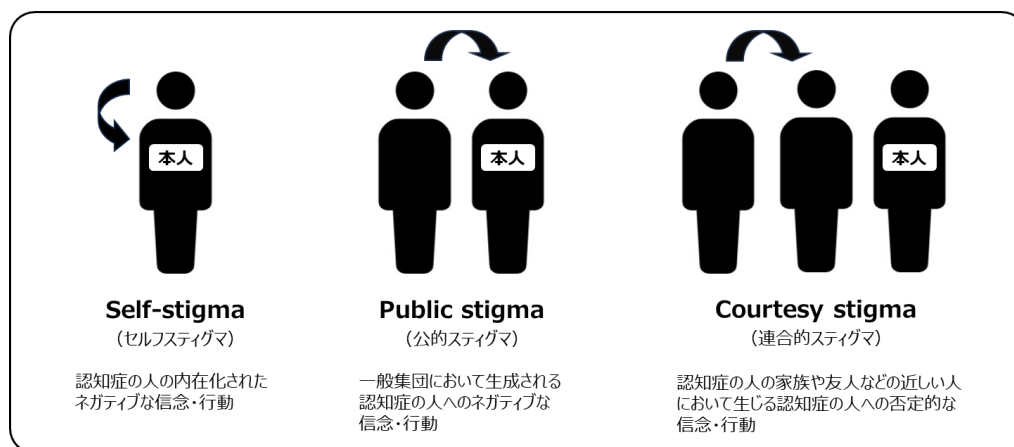
Noguchi T, Shang E, Nakagawa T, Komatsu A, Murata C, Saito T. Establishment of the Japanese version of the dementia stigma assessment scale. *Geriatrics & Gerontology International*, 2022, 22(9);790-796. doi: 10.1111/ggi.14453.

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/ggi.14453>

## 2. 認知症スティグマについて

スティグマという言葉は、個人や特定の社会集団への負の表象・烙印であり、ネガティブなレッテルを意味します。認知症スティグマは、認知症に対するネガティブな信念や行動であり、偏見や差別という形で現れます。認知症スティグマは認知症の人の受診や治療の遅れや社会的交流からの排除などから、認知症の人と家族の生活の質を低下させるため、認知症スティグマの克服は世界的課題となっています。

認知症スティグマは、認知症の本人に生じるセルフスティグマ（self-stigma）、認知症ではない（または当事者家族ではない）一般住民において生じる公的スティグマ（public stigma）、認知症の本人の家族や友人など近しい人において生じる連合的スティグマ（courtesy stigma）などに分けられます（図 1）。PDSA-J は、一般住民の公的スティグマを評価するものです。



※本人は、認知症の人本人を意味する

図 1. 認知症スティグマの種類（野口, 斎藤, 現代医学 2023. より引用）

## 3. PDSA-J の構成

PDSA-J は 26 項目から構成され、認知症に対する信念や態度に関して 4 つの側面（①回避、②診断の恐怖、③尊重、④差別の恐怖）を評価します（表：PDSA-J 質問票）。各質問については「ま

「まったくそう思わない」から「とてもそう思う」の5件法により回答されます。①回避、②診断の恐怖、④差別の恐怖は点数が高いほど認知症への偏見や差別的な態度・行動が強いことを示し、③尊重は点数が高いほど認知症への前向きな態度を有していることを示します。

## (1) 認知症スティグマの4側面の点数の算出

①回避：認知症の人への社会的排除や回避行動・態度を評価します。

質問項目 #1 + #4 + #5 + #7 + #9 + #10 + #13 + #14 + #16 (9項目、9-45点)：点数が高いほど、認知症の人への回避的な行動・態度が強いことを示します。

②診断の恐怖：認知症と診断された際の不安や恥の意識を評価します。

質問項目 #17 + #18 + #19 + #20 + #21 + #22 + #23 (7項目、7-35点)：点数が高いほど、診断への恐怖が強いことを示します。

③尊重：認知症の人に対する前向きな態度や尊重の意識を評価します。

質問項目 #2 + #3 + #6 + #8 + #11 + #12 + #15 (7項目、7-35点)：点数が高いほど、認知症の人に対する尊重的な態度が高いことを示します。

④差別の恐怖：認知症と診断された際の医療や社会からの差別の恐怖を評価します。

質問項目 #24 + #25 + #26 (3項目、3-15点)：点数が高いほど、差別の恐怖が強いことを示します。

※一般成人 819 人の調査データにおける平均値など（参考値）

	平均値 (標準偏差)	中央値 (IQR)
①回避	23.8 (5.9)	24 (20-27)
②診断の恐怖	24.0 (4.9)	24 (21-27)
③尊重	18.9 (3.8)	20 (17-21)
④差別の恐怖	7.9 (2.3)	8 (6-9)

## (2) PDSA-J 短縮版について

行政現場や研究調査などにおいて使用しやすいように、12項目のPDSA-J短縮版(PDSA-J12)を開発しました。PDSA-J12は、PDSA-Jの4要素から代表的な項目を選択し、各3項目ずつから構成されます(表1中の※項目、それぞれ3-15点)。PDSA-J12の開発は、以下の論文に詳細が記載されています。

Noguchi T, Nakagawa T, Komatsu A, Shang E, Murata C, Saito T. Development of a short version of the Dementia Stigma Assessment Scale. *Asia Pacific Journal of Public Health*, 2023, 35(6-7);456-458. doi: 10.1177/10105395231186007.

<https://journals.sagepub.com/doi/10.1177/10105395231186007>

※一般成人 819 人の調査データにおける短縮版の平均値など（参考値）

	平均値 (標準偏差)	中央値 (IQR)
①回避	7.9 (2.3)	8 (6-9)
②診断の恐怖	11.2 (2.3)	11 (9-13)
③尊重	8.3 (1.9)	9 (7-9)
④差別の恐怖	7.9 (2.3)	8 (6-9)

#### 4. PDSA-J、PDSA-J12 の使用許諾について

非営利的な活動、学術活動であれば、著者の許諾なしに無料で使用が可能です。ただし、本尺度の使用にあたって文章の変更は許可されていません。

PDSA-J、PDSA-J12 の使用に関して、ご不明な点がございましたら次の連絡先までご連絡ください。

#### <お問い合わせ先>

国立長寿医療研究センター 研究所 老年社会科学研究部 外来研究員 野口泰司

お問い合わせ：soc-panel@ncgg.go.jp

（注1）Lyn Phillipson 博士らによる原尺度の開発論文

Phillipson L, Magee CA, Jones SC, Skladzien E. Correlates of dementia attitudes in a sample of middle-aged Australian adults. *Australasian Journal on Ageing*, 2014, 33(3):158-63. doi: 10.1111/j.1741-6612.2012.00624.x

表. 認知症スティグマ評価尺度 日本語版 (PDSA-J)

認知症に関してあなたが感じていることについておうかがいします。あてはまる番号一つを選んでください。

	全く 思わない	思わない	どちら でもない	思う	いつも 思う	いつも思う・ 思う該当割合 (%)
#1. ほとんどの認知症の人には、複雑で面白い会話は期待できない	1	2	3	4	5	22.2%
#2. 認知症の人は知恵があるために尊敬される	1	2	3	4	5	9.8%
#3. 認知症の人は、ほとんど自立して生活している	1	2	3	4	5	6.5%
#4. 認知症の人は、公共の施設を利用する必要があまりない	1	2	3	4	5	5.6%
#5. 認知症の人は、誰にも迷惑をかけないところに住むのが一番だ	1	2	3	4	5	11.2%
#6. ほとんどの認知症の人との付き合いは、かなり楽しい	1	2	3	4	5	6.5%
#7. その人が認知症だと思ったら、私は目を合わせないようにするだろう	1	2	3	4	5	10.9%
#8. 認知症の人は、大切な伝統を受け継いでいる (※)	1	2	3	4	5	9.9%
#9. 私は、認知症の人が私と会話をしようとするのが好きではない (※)	1	2	3	4	5	17.0%
#10. 私は、個人的には認知症の人とあまり多くの時間を過ごしたくない	1	2	3	4	5	34.4%
#11. 認知症の人は、幅広い種類の活動や関心事に参加している (※)	1	2	3	4	5	11.0%
#12. 認知症の人は、知識が豊富だ (※)	1	2	3	4	5	9.7%
#13. もし認知症の人も招待されたら、私はその会に参加したくない	1	2	3	4	5	12.1%
#14. 私が訪ねたことを覚えていないだろうから、私はわざわざ 認知症の人を訪問しない (※)	1	2	3	4	5	13.6%
#15. 認知症の人は、他人への気遣いや気配りをする	1	2	3	4	5	15.1%
#16. 私の言っていることを理解できないので、認知症の人に 話しかける意味はない (※)	1	2	3	4	5	6.8%
#17. もし私が認知症だったら、屈辱的に感じるだろう	1	2	3	4	5	38.4%
#18. もし私が認知症だったら、もう相手にされないだろう	1	2	3	4	5	36.0%
#19. もし私が認知症だったら、ばかで何もできないと思われるだろう	1	2	3	4	5	35.5%
#20. もし私が認知症だったら、恥ずかしかったり、きまりが 悪かったりするだろう (※)	1	2	3	4	5	45.0%
#21. もし私が認知症だったら、落ち込むだろう (※)	1	2	3	4	5	68.3%
#22. もし私が認知症だったら、不安になるだろう (※)	1	2	3	4	5	78.4%
#23. もし私が認知症だったら、人生を諦めるだろう	1	2	3	4	5	37.3%
#24. もし私が認知症だったら、主治医は私の他の病気に最善の治療を してくれないだろう (※)	1	2	3	4	5	11.7%
#25. もし私が認知症だったら、主治医や他の医療専門職は私の話を 聞いてくれないだろう (※)	1	2	3	4	5	13.0%
#26. もし私が認知症だったら、そのことを健康保険会社に 知られたくないだろう (※)	1	2	3	4	5	13.4%

①回避：#1+#4+#5+#7+#9+#10+#13+#14+#16 (9-45 点) ②診断の恐怖：#17+#18+#19+#20+#21+#22+#23 (7-35 点)

③尊重：#2+#3+#6+#8+#11+#12+#15 (7-35 点) ④差別の恐怖：#24+#25+#26 (3-15 点)

(※)短縮版 PDSA-J12 (全 12 項目)

いつも思う・思う該当割合は、一般成人 819 人の調査データより (Noguchi T, *Geriatrics & Gerontology International*, 2022)